

自然博物館  
ニュース

# CA·MUSEUM ア・ミュージアム

vol.19



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



## アメリカコハクチョウがやってきた



上：1998年11月24日に菅生沼上沼で撮影されたアメリカコハク

チョウ

(写真提供：博物館ボランティア 篠原一夫氏)

下：博物館から見た菅生沼下沼の風景

1998年11月に、日本では希にしか見られないアメリカコハクチョウ<sup>まれおぬまとらい</sup>1羽が菅<sup>すが</sup>生沼に渡来しました。

アメリカコハクチョウは、菅生沼でもおなじみのコハクチョウの一亜種で、学名は *Cygnus columbianus columbianus* (←この最後の部分が、菅生沼に来るコハクチョウでは *ankowskyi* になります) です。もともと両方のハクチョウ共に、夏の間に北極圏で繁殖をしますが、アメリカコハクチョウは冬に北アメリカ大陸に渡り、コハクチョウはユーラシア大陸に渡る点が異なります。今回菅生沼に渡来したアメリカコハクチョウは、おそらく北アメリカに渡るところを間違えて、日本に来てしまったのではないかと考えられています。

アメリカコハクチョウの、コハクチョウとの見た目大きな違いは、くちばしのほとんどが黒色で、わずかに付け根に黄色い部分があるというだけの点です。

最近、菅生沼は急速に水深が浅くなっています、カモ類に利用しづらい生息環境となっています。またいつか珍らしいお客様が訪れてくるでしょうか…。

(教育課：山崎晃司)

第16回企画展

ビッグ・デュオ—象と鯨の奏でる世界  
Giants on Terra and Masters in Aqua: Ensemble of The Big Duo

現在、動物界においては、陸上ではゾウ類、水中ではクジラ類が最大の動物として知られています。いずれも恐竜絶滅後、新生代の陸上に出現し、発展したグループです。

ゾウ類が初めて現れたのは、今から5,000万年以前のアフリカです。その姿は、今からは想像できないものでした。ゾウ類は、それから何千万年もの間に体の大きさ、頭や鼻の形、四肢等が大きく変化し、現在の動物園で人気者となっている、鼻の長い、大きなゾウの姿になりました。

クジラ類は、陸上に生息していた祖先が、餌が豊富にある水中に生活の場を求めたものです。そして、何千万年もの間に、水中での生活に適応するため体の形は流線型に変わり、呼吸法、食性、コミュニケーションなど陸の哺乳類には見られない特性を獲得しました。

今回の企画では、巨大ほ乳類のゾウ類とクジラ類の手足の構造、鼻、耳と皮膚、食物のとり方、繁殖・出産・寿命、コミュニケーションなどの共通性や、ちがいについて比較していきます。

ゾウ類のコーナーでは、日本固有のゾウ類であるアケボノゾウや旧石器時代の日本人が狩りの対象としたナウマンゾウのジオラマ、頭骨や臼歯でたどるゾウ類の進化、トピックス、古墳時代の日本各地から出土する三角縁神鏡にレリーフされたゾウや江戸時代に日本に渡ってきたアジアゾウ、日本人に親しまれたゾウを紹介します。また、動物園コーナーとして、ゾウの大きさを様々なグッズで体験したり、日本の動物園にいるゾウの系統を知ることもできます。

クジラ類のコーナーでは、ハクジラ類とヒゲクジラ類のちがい、食性と音を聞く楽しみ、日本国内から発見された珍しいクジラ化石で見るクジラ類の進化について紹介します。

最後のコーナーでは、ゾウ類とクジラ類の現状と保護についてや、今、私達には何ができるかを考えます。

(企画課：国府田良樹)



授乳中のアフリカゾウの親子(ザンビア)



茨城沖を泳ぐマッコウクジラ©加藤秀弘

**開館時間** 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

**休館日** 毎週月曜日

（但し、5月3日（月）は開館、6日（木）は休館します。）

**入館料** 大人 710円（570円）

高・大学生 430円（290円）

小・中学生 140円（70円）

\*（ ）内は20名以上の団体料金です。

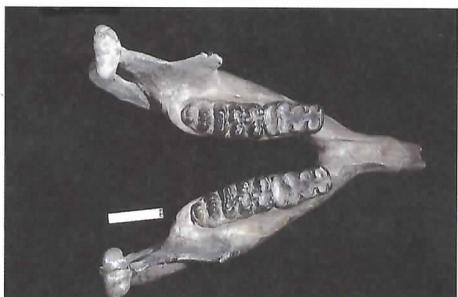
\*この料金には、常設展・野外施設入場料が含まれています。



北海道忠類村産出のナウマンゾウ



ステゴロホドンゾウの復元図(©富田武子)



約1,700万年前の日本に生息したステゴロホドンゾウの下顎骨

記念行事

6月26日（土）デュオ・コンサートの夕べ

<企画展記念講座>

6月6日（日）アフリカゾウの世界

講師：新田和弘氏（JICAザンビア専門家） 清野比咲子氏（トラフィックジャパン）

8月1日（日）巨大動物発掘の現場から

講師：長谷川善和氏（群馬県立自然史博物館）

8月7日（土）象の鼻はなぜ長い

講師：犬塚則久氏（東京大学大学院医学系研究科）

時間：13:00～15:00 定員：40名 参加費：無料

※各行事は、全て事前申込制となっております。

## 研究ノート●霞ヶ浦の植物相

茨城県自然博物館では、茨城県を4地域に分け、各地域を3カ年かけて、その地域に分布する地学、植物、動物分野に関する自然資料の調査を実施しています。

平成6年から8年にかけて実施された第1次総合調査では、各分野とも筑波山・霞ヶ浦を中心とする地域で調査が実施されました。その結果は、第1次総合調査報告書や昨年秋に開催された第14回企画展すでに報告されました。

植物分野の調査は、維管束植物(種子植物、シダ植物)と非維管束植物(藻類、地衣類、菌類)に分けて実施され、維管束植物の分野は筑波山と霞ヶ浦の2つの地域で植物相の調査が行われました。

植物相調査とは、その地域にどんな植物が生育しているのかを調べるもので。今回の研究ノートでは、総合調査の成果にもとづき、霞ヶ浦の植物相を紹介しましょう。調査地は霞ヶ浦を一周するように沿岸地域とその周辺の社寺林に67カ所設定し、4月から10月の期間に、調査地ごとに季節をかえて複数回の調査を実施しました。

### [霞ヶ浦の植生の概要]

かつての霞ヶ浦は、湖面や水中に様々な水草が繁茂し、周辺にはヨシをはじめとする広大な抽水植物帯が発達していました。しかし、現在はこれらの植物は衰退し、往事の面影はありません。

まず、沈水植物は、富栄養化による水質汚濁のためか、非常に少なくなっています。昭和40~50年代には沈水植物は約30種ありましたが、現在はエビモ等が僅かに見られ、帰化植物のコナダモ等が限られた所に分布しているだけです。

また、浮葉植物のオニバスは湖内では見られず、絶滅がさわが

れています。アサザは湖南半部に多く分布していて健在ですが、ガガブタは減少傾向にあり心配です。

また、ヒシ、オニビシ等が舟溜まり内等に大きな群落をついているのがしばしば見られます。各地の堤防内の排水路にはトチカガミの群落も見られます。

抽水植物帯については霞ヶ浦周辺の護岸工事や砂利採取、埋め立て等により壊滅したところが目立ち、単調な植生となっていました。しかし、種々の植生回復のための施策がなされたところでは抽水植物帯も徐々に復活して、従来の生態系に近づいた地域(主に湖南地域)もあります。

木本群落としては、ところどころにアカメヤナギの大木が生育し、タチヤナギ、カワヤナギ等のヤナギ類が多く見られます。

水田、特にハス田には、施肥の関係かオオアカウキクサやサンショウウモなどの浮遊植物の群落が見られます。

なお、霞ヶ浦の周辺には照葉樹を優占種とする平地林や斜面林、特に社寺林が点々と見られます。これら照葉樹林の構成を見るとスダジイ、タブノキ、カシ類等の高木層の下にヤブツバキ、シロダモ、ヒサカキ等の亜高木層が見られ、さらにネズミモチ、アオキ、マンリョウ等の低木層があります。林床には暖地性のシダ類をはじめ、コクランやヨウラクランなどのラン科植物も見られ、暖地林の様相を呈しています。

さらに、海跡湖のため海岸性の植物が点々と見られるのも興味深いところです。ワセオバナ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマアオスゲ、コウボウシバ、トベラ、コモチシダ等が湖岸や斜面林等に生育しています。

(資料課:小幡和男)

### [霞ヶ浦の特徴的な植物]

霞ヶ浦とその周辺に生育している植物のうちで絶滅が心配されるものを紹介します。

#### ① デンジソウ デンジソウ科

*Marsilea quadrifolia*

水田や池沼に生える夏緑性の水生シダで、四葉のクローバ似た4枚の小葉を水面に浮かべます。今回の総合調査で麻生町の水田に生育しているのが確認されました。全国的に希になっており、茨城県では絶滅危惧種に、環境庁の植物版レッドリストでは、絶滅危惧II類に指定されています。



#### ② ミクリ ミクリ科

*Sparganium erectum ssp. stoloniferum*

湖沼や河川などに生える抽水植物。葉は長く線形で断面が三角形なのが特徴です。成熟した果実はクリのいがに似ています。茨城県では希少種、環境庁のレッドリストでは準絶滅危惧に指定されています。



#### ③ ミズアオイ ミズアオイ科

*Monochoria korsakowii*

湖沼や休耕田に見られる大型の一年草で、夏から秋にかけて青紫色の花を咲かせます。周辺のハス田などで、かなりまとまって生育しています。茨城県では危急種、環境庁のレッドリストでは絶滅危惧II類に指定されています。



#### ④ アサザ ミツガシワ科

*Nymphoides peltata*

浮葉性の多年草で、6から8月ごろ、水上に花柄を伸ばして、直径3から4cmの黄色い花を咲かせます。霞ヶ浦では、NGOによって保護増殖が積極的にはかられており、20カ所の生育地が確認されています。その中の数カ所はかなり大きな群落となっています。茨城県では希少種、環境庁のレッドリストでは絶滅危惧II類に指定されています。



#### ⑤ ガガブタ ミツガシワ科

*Nymphoides indica*

アサザによく似ていますが、花が白色でその径が1.5cmと小さいので区別することができます。霞ヶ浦では、アサザに比べてかなり数が少なく、危機的な状態であると言えます。茨城県では危急種、環境庁のレッドリストでは絶滅危惧II類に指定されています。



#### ⑥ ジョウロウスゲ カヤツリグサ科

*Carex capricornis*

水湿地に生える多年草で、北方系のスゲです。5から7月に、多数の果胞をきわめて密につけ、橢円形の穂を形成します。環境庁のレッドリストで絶滅危惧I類に指定されています。



## 野外紹介●自然発見器

本館の南側にある広い野外には、遊びながら自然のおもしろさや不思議さが体験できる装置がたくさんあります。これらの装置を当館では、「自然発見器」とよんでいます。

この自然発見器は、野外の南側の「夢の広場」や「水の広場」等に21種類ほど点在しています。それらの中には、太陽、風、雨、土、音といった自然や自然現象を調べる装置があります。そのいくつかをご紹介しましょう。

### 浄水装置



自然発見工房の建物のとなりにある装置で、この建物の屋根に降った雨水が自然にこの大きな樽に集まるようになっています。蓄えられた雨水はろ過器を通してきれいな水に変わります。

### 風力発電機



太陽の広場にあるこの装置は、風の力を利用して発電できる風車です。冬の北風の強いときなど、羽根の部分がすごい勢いで回っています。瞬間瞬間の、風の速さと発電量が、自然発見工房の展示室の中に表示されています。

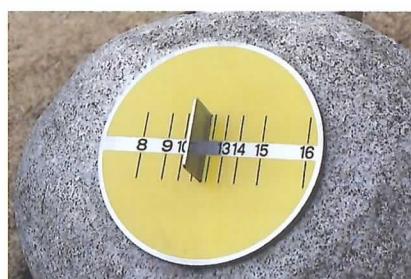
### 日時計

自然発見工房前の太陽の広場には、4種類の日時計があります。

日時計から読みとった時刻と、その時の正しい時刻と何分くらい違うのか、さらに、その違いが季節によって異なるのか調べてみましょう。



日光が三角形の板に当たってできる陰の先のところから時刻を読みとる日時計。



時刻が書かれている円盤に垂直に立てられた板の陰の先端から時刻を読みとる垂直型日時計。



スリットから入る日光の位置から時刻を読みとる円周型日時計。



球のまん中を通っている棒が半球の内側の面に映した影から時刻を読みとる地球型日時計。

### 気象装置



自然発見工房周辺の気温・湿度・気圧、そして雨量が一度に、測定できる装置が、今年新しくお目見えしました。測定結果は、自然発見工房展示室の中の記録装置に1日24時間、1年365日続けて記録されています。

### 地中温度計



地上、地下3m、地下15mの3か所に温度計が取り付けられています。地上と地下浅い所と地下深い所と、どのくらい温度が違うのか比べてみましょう。

### 地中サンプルベンチ



地層を垂直に20m取り出し、パイプの中に閉じこめたものです。深さによって地層をつくっている土の粒の大きさや色の違いを比べてください。

ほかにもたくさんの自然発見器があります。どの装置も一度ためしてみてください。新しい発見があると思います。

(資料課：根本 茂)

## 歳時記●春, ・・・が鳴く, ・・・がやって来る!



みなさんは「春の鳥」というと、なにを思い浮かべるでしょうか。この質問を聞いて「ホーホケキヨ、ケキヨ、ケキヨ」というさえずりを、連想しない人は少ないのではないかでしょうか。ウグイスはまさに春告げ鳥です。日ざしの暖かくなる3月、その年最初のさえずりを耳にします。菅生沼での、今年の初鳴きは3月3日でした。このウグイス、冬にも普通に



いる留鳥ですが「チャツ、チャツ」という“地鳴き”と呼ばれる声しか出しません。体は地味な色合いの上、やぶを好む鳥ですので、冬には近くにいても気づいてもらえない影の薄い存在です。しかし、日が長くなり気温が上がってくると、あの美しいさえずりを披露し、われわれの耳を楽しませてくれるのです。時期には、あちこちで競いあって鳴いていますが、このさえずりはなわばり宣言で、オスにとっては繁殖のためのきびしい戦いなのです。

ウグイスが春を告げる鳥ならば、春を運んでくる鳥はなんでしょう。桜がほころんで、春らしくなると同時に、南方の越冬地からツバメがやってきます。博物館での初認は昨年、一昨年とも4月8日でした。東南アジアなどで越冬し、春になると

営巣のため日本にやってきます。つかいが協力し、泥土やわらなどを自分の唾液でこね、壁にわん型の巣を作ります。その巣にあふれそうな数のヒナを育てます。人の生活のすぐそばで営巣し、なじみ深い鳥です。

植物が花を付け、虫たちが動きはじめ、鳥たちがそれを食べ、子育てをするのです。季節の移り変わりを感じさせてくれる大切な隣人たちです。みんなのところでは、いつ鳴きましたか? いつ姿を見せたでしょうか? (資料課: 石塚 剛)

## 収蔵品紹介●コスタリカ標本(熱帯植物さく葉標本)



みなさんは、コスタリカという国をご存じですか? 南北アメリカをつなぐ地峡、中央アメリカにあるコスタリカ共和国は、中米の楽園とも呼ばれ、熱帯雨林を中心に様々な生き物がすむ自然の豊かな国です。当館では、コスタリカの植物の貴重な標本368種1,052点を収蔵してい



ます。日本国内で、これほどコスタリカ植物標本をもつ博物館は、あまり例がないのではないかと自負しております。収蔵するきっかけとなったのは、昨年の7月~9月に当館で開催した、第13回企画展「妖精たちのすむ森から—コスタリカの生物多様性とその保護—」(通称コスタリカ展)です。コスタリカのアラフェラ県と茨城県は、つくば万博以来友好県の関係にあり、1997年度にはコスタリカ国立博物館

のレダ・マリアさんが当館で7ヶ月にわたる長期研修を実施するなど、様々な交流がなされました。そして、コスタリカ展開催にあたっては、展示・収蔵資料としてのさく葉標本をコスタリカ国立博物館より譲っていただきました。コスタリカからの標本が到着し、梱包を解いた日の感動はいまだに忘れられません。立体感あふれる巨大な実、大きな葉、そして異様ともいえる不思議な形の植物など、熱帯ならではの迫力をもつ標本の連續で、時間のたつも忘れて整理に没頭しました。これらの植物のほとんどは、日本に自生していない種であり、日本では見られない科も多いので、系統の比較や分類の研究の際には大いに役立つ貴重なものです。写真は、クズウコン科カラテア属の植物(左)とパナマソウ科アスブルンディア属の植物(右)です。クズウコン科の植物は、葉に模様をもつものが多く、日本でも観葉植物として栽培されています。パナマソウ科の植物は、繊維が民芸品等の材料として利用されています。

(資料課: 廣瀬孝久)

## ワイトピックス○自然博物館が公共建築百選に選ばれる！

建設省設立50周年記念事業の「公共建築百選」に、ミュージアムパーク茨城県自然博物館が選定されました。

地域住民に親しまれ、地域社会への貢献度が高いなどが審査基準ですが、来館者が年間50万人を数え、そのうちリピーター（再入館者）が6割近くに達していることなどが評価されての受賞です。

全国では、最高裁判所、国立劇場、東京都庁舎なども選ばれています。

茨城県では、他に水戸芸術館が選出されました。

### 公共建築百選とは？

建設省設立50周年を記念し、地域住民に親しまれ、また、地域社会への貢献度が高いなど優れた公共建築を選定し、顕彰することにより、21世紀を目前にした今、官公庁などの公共建築物を整備する上で、意義・重要性に対する国民の関心を高め、さらなる理解と協力を得られるようにすることを目的にしています。

### 公共建築百選の審査基準は？

- ① 地域社会に対する貢献度が高く、地域住民に親しまれること。
- ② 建築技術、意匠等の観点で優れていること。
- ③ 施設の管理・運営、保全が良好に行われていること。

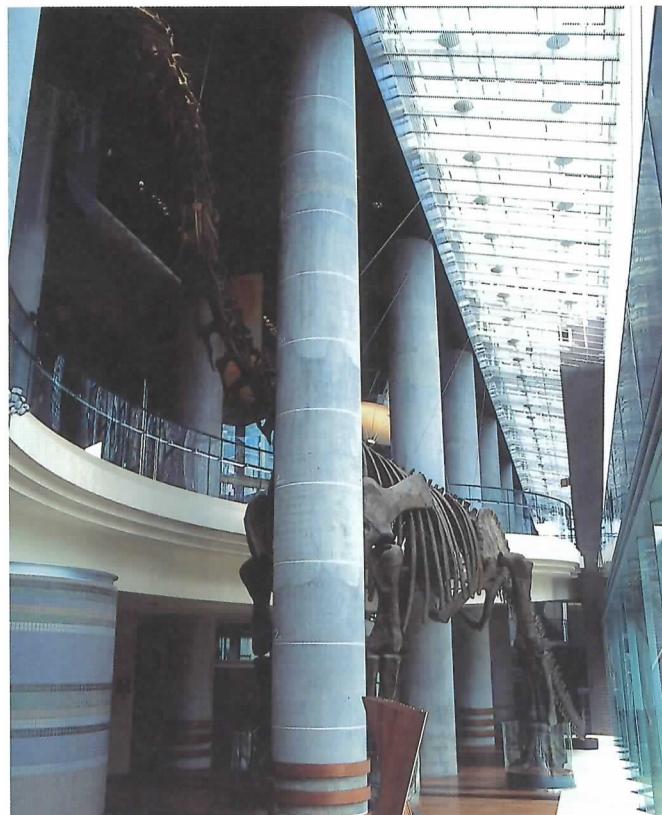
### 審査された建物は？

国の機関、地方公共団体または政府関係機関もしくはこれに準ずる機関の事業に係る建築物及びその他公共性の高い建築物で、



昭和23年から平成7年3月までに竣工し、現存するものです。

(資料課：久松正樹)



### コラム by director NAKAGAWA ◎署名

館長室には一冊のサイン帳があります。来館される各分野の先達の方々に自署を頂くことと、併せて何か示唆になるお言葉を残していただければの思いからです。

最近では2月11日が圧巻でした。この日は「鯨展」の関連行事で小谷実可子さん（ソウル五輪・水泳シンクロ部門銅メダリスト）が来室されたのを皮切りに、午後になって世界的な学者が相次いで訪れてくださいました。お一人は1973年ノ

ーベル物理学賞受賞者で前筑波大学学長の江崎玲於奈博士でご夫人を伴っての御来室でしたし、元東京大学学長でロボット工学の権威、吉川弘之博士も夫人同伴でお出でになりました。

江崎博士のお言葉は「自然の創造」、吉川博士は「自然と人工の調和」と記入され、いかにも専門が滲み出ている感をもちました。



## トピックス◎12月～2月

### ミカコと語ろうクジラ・イルカの話

2月11日(木)

1988年に開催されたソウルオリンピックの銅メダリストでもあり、現在もTV番組のキャスターなど多方面で活躍されている、小谷実可子さんの講演会「ミカコと語ろうクジラ・イルカの話」が行われました。当日は、小雨混じりのあいにくの悪天候の中、定員の3倍にもなるお申し込みの中から当選された、約300名の方々にご出席いただき、会場は熱気に包まれていました。小谷さんには、様々なクジラ・イルカと一緒に泳いだ時のお話だけでなく、子どもの頃のお話や、シンクロナイズドスイミングのお話、オリンピックの経験、クジラ・イルカと一緒に泳ぐようになったきっかけについてなどを、様々なエピソードを織り交ぜながら楽しくお話ししていただき、来場された方々も熱心に聞き入っていました。また、会場から寄せられた質問にも、丁寧・親切に回答していただきました。



### 第2回「課題植物」押し花絵コンクール結果発表

第2回「課題植物」押し花絵コンクールを実施し、12月16日から1月31日まで、セミナーハウスにおいて応募作品の展示を行いました。これは、希少植物の保全に配慮しつつ、身近な野草を材料に作品を制作し、なおかつその作品を展示することにより、野生の植物に対する興味を通じて、できるだけ多くの方に自然保護への関心を高めてもらうという趣旨のもとに、20種類の植物のみを用いた押し花で絵を作ろうというものです。

今年度は26点の力作が寄せられました。規定変更後2回目とあって、昨年にも増して力作揃いで、審査員を唸らせていました。そして、厳正なる審査の結果、以下の方々が入賞されました。(敬称略)

館長賞 青木 利子「ストールをした少女」(右写真)  
 副館長賞 白井 峰子「記憶の中の北海道」  
 優秀賞 塚越 松江「森の空気でリフレッシュ」  
 優秀賞 青木 利子「流れ星」  
 優秀賞 鈴木 純子「一枚のフォトグラフ」  
 優秀賞 花形美恵子「道端の雑草たち」  
 優秀賞 山口八重子「襖絵の秋」  
 奨励賞 櫻井 信「道ばたの押し花」



このコンクールは、引き続き来年度も実施する予定ですので、皆さんの奮ってのご応募をお待ちしております。

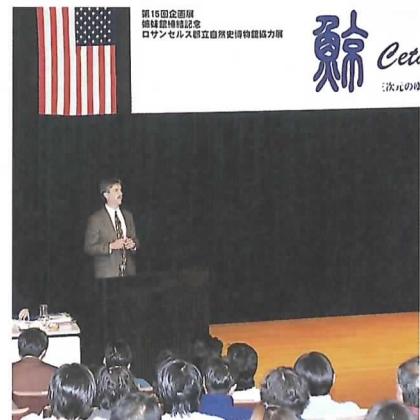
また、同時に展示された「押し葉のしおりの部」では、11月のサンデーサイエンスの参加者の方々による289点の応募が寄せられ、以下の方々が入賞されました。

館長賞 佐藤駿輝 横山こうや 莉塚正人 福田和人 和田宗子  
 副館長賞 安井えりこ 矢口えり 岡部慧子 和田京 森れいこ  
 優秀賞 横山あつし すずきなほ 安井なお子 小原あやな 村田舞維  
 松本正弘 中島文昭 山田夏実 福田哲夫 岡田純子

### ヘイニング博士講演会

1月10日(日)

当館の姉妹館である、ロサンゼルス郡立自然史博物館からジョン・E・ヘイニング博士を講師にお迎えして、第15回企画展記念講演会「鯨とイルカの不思議」が行われました。博士からは、鯨とイルカの違いや、生活の仕方などについて、スライドを使用して分かりやすくお話ししていただきました。会場からは多くの質問が寄せられ、鯨・イルカの生態についての関心の高さが伺えました。



### ミニ移動博物館開催

1月22日(金), 23日(土)

自然博物館を皆さんに知ってもらうために、8月に常磐自動車道守谷サービスエリアで開催したのに引き続き、取手のデパートで今年度2回目のミニ移動博物館を開催しました。世界最大の花ラフレシアの実物大模型や、アクロカントサウルスの頭骨標本、マンモスのキバ、昆虫や植物の標本などを展示し、博物館のパンフレットや、企画展のチラシなどを配付したほか、抽選で当選した方には招待券をプレゼントしました。期間中は多数の方にご観覧いただき、博物館について皆さんに知ってもらいました。今後も同様のミニ移動博物館を様々な場所で行いますので、展示しているのを見かけましたら、是非お立ち寄りください。



## インフォメーション(4~6月の行事)

### 自然観察会

- 4月18日(日)  
『春植物の観察(筑波山)』  
5月23日(日)  
『鉱山跡を訪ねて』  
6月13日(日)  
『磯の動物を観察しよう(平磯海岸)』  
\*集合場所・定員は観察会ごとに異なります。

### 自然教室(定員:40名)

- 4月10日(土)10:00~12:00  
『のぞいてみよう土の世界』  
5月8日(土)10:00~12:00  
『竹細工に挑戦』  
6月12日(土)10:00~12:00  
『アンモナイトの内部を見よう』  
[対象:小中学生]

### サンデー・サイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタジルームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

#### テーマ

- 4月『化石のレプリカをつくろう』  
5月『昆虫のちぎり絵をつくろう(コングルール)』  
6月『野草で紙をつくってみよう』  
時間 午前の部 10:30~12:00  
午後の部 14:00~15:30  
受付 開始時間の1時間前から、スタジルーム前で受け付けます。希望者多数の場合は抽選を行います。

### 自然講座(定員:50名)

- 5月9日(日)13:00~15:00  
『インドの野生動物保護』  
6月6日(日)13:00~15:00  
『アフリカゾウの世界』  
[対象:中学生以上]

#### 【観察会等への申込方法】

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います(講座は先着順)。  
ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
TEL 0297-38-2000

### 映画会(定員:300名)[3階映像ホール]

- 4月18日(日)『親子パンダの物語』  
5月16日(日)『奇跡の旅』  
6月20日(日)『ガイアシンフォニー』  
上映時間 14:00~ 入場無料

### 自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。  
相談方法 博物館あてに質問を郵送するか、直接来館ください。

相談日 4月11日(日)

6月13日(日)

場所 ディスカバリー・プレイス観察コーナー  
時間 13:30~15:30

### その他のイベント

- 4月29日(木) サイエンスデー  
(生物・科学の日)  
6月5日(土) サイエンスデー  
(地球・科学の日)  
4月24日(土)・5月22日(土)・6月26日(土)  
わくわくディスカバリー

■は休館日です。

4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

6月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

### [交通案内]



- 常磐自動車道谷和原I.C.から20分。
- JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。



### ご利用案内

#### [入館料]

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
大人	510円(410円)	200円(100円)
高校・大学生	310円(200円)	100円(50円)
小・中学生	100円(50円)	50円(30円)

(注) ( ) 内は団体料金(20人以上)

企画展開催期間中については別料金となります。

つぎの日の入館料は無料です。

●3月21日(春分の日) ●4月29日(みどりの日)

●6月5日(環境の日) ●11月13日(茨城県民の日)

●高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。(但し、春・夏・冬休み期間を除く)

#### [開館時間]

午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

#### [休館日]

●毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ●年末年始

### [編集後記]

1月に行われた、自然教室「天体望遠鏡で土星の環を見よう」に参加しました。土星の環を写真で見たことはあっても、

実際には見たことがなかったので、土星の環が、鮮やかに望遠鏡から望めたときは、思わず「写真みたい」という言葉が出てしまうほどでした。そんな楽しみも

いっぱいある自然教室、そして、茨城の身近な自然を再発見してみる自然観察会に、あなたも参加してみませんか。

(N・I)